

優秀賞

パパに教えてもらった事

茨城県 つくばみらい市立陽光台小学校五年 池田 進

半年前、ぼくのパパは心筋こうそくでたおれてしまいました。

パパがたおれたことを知ったとき、ぼくたちはすごくかなしかったです。いつもやさしいパパがいなくなってしまうかと思うと心がいたくなり、さみしさがあふれてしまいました。でも家族みんなでパパは復活すると信じました。

パパは職場でたおれ救急車で集中治りよう室に運ばれて、それからずっと気を失っていました。みんなすごく心配でずっと泣いていました。こんな重しよの心筋こうそくは見たことがないと病院の先生に言われて、助かる確率は十人中一人いるかないかと言われました。病院の決まりで中学生以下は面会できないのですが、パパの先生が特別にぼくも面会していいと言ってくれました。

面会をするときぼくはきんちようしていました。

ました。

それから少し時間がたちました。パパは意識がもどりました。みんな喜びました。話すことはできませんでしたが数週間たったらパパは少しずつしゃべれるようになりました。

パパは、心ぞういしょくをすることになり心ぞういしょくせん門の病院に転院することになりました。転院するときにぼくたちはパパに会うことができずしました。いつものパパを見ているように泣いてしまいました。パパの看護師さんたちは笑顔でお見送りしてくれました。パパは心ぞういしょくを待つ間人工心ぞうを入れることになりました。そして人工心ぞうの手じゅつが無事終わりパパはいっぱん病とうに移りました。パパに会うことができた時、パパはいつものパパでうれしかったです。パパの手はあたたかかったです。

ぼくは、パパのおかげで家族の大切さや、一生けん命に生きることを教えてもらいました。ぼくの家族は、ながあってもささえ合い大きなかべも乗りこえる家族です。これから家族みんな元気でささえ合いながら楽しく笑い合って過ごしていきたいです。



ぼくは元気なパパの姿しか知らないし病気で意識のないパパはどんな様子なのか考えるとこわかったです。そしてパパがいる病室に行くときパパはいたような顔をしてねていました。そんなパパの顔を見たことがなかったので、ぼくは自分でもびっくりするくらい大きな声で泣いてしまいました。ずっと泣いて少ない面会時間なのにただ時間だけが過ぎてしまいました。お母さんに、

「パパに声かけてあげて。パパちゃんときいてるから。」

と言われて、ぼくは、

「パパ大好きだよ。早く良くなってね。みんなで待ってるよ。」

とパパに伝えたかったことをたくさん言いました。面会の時間が終わってしまい、パパと別れるのがいやでした。でもいつかまた会えることを信じて別れ